

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年5月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成渴仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年4月3日の広布唱題会の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「第六天の魔王に負けない信心」

臆する心は誰でも持っている。妙法の信仰をしている中にも、臆病なるゆえに退転する者は少なくない。第六天の魔王は、この「臆病」が大好きである。この魔王は欲界の頂点に君臨し、人の欲を司ることを娯楽とする。また多くの眷属を引き連れて、仏道を妨げ智慧の命を奪う。別名を「奪命魔」といい、三障四魔でいえば「天子魔」がこれに当たる。魔王の本性は仏道を憎み妬むにある。大聖人は仰せである。「日蓮が弟子等は臆病にては叶ふべからず」(御書1109頁)と。御本尊におられる第六天魔王は、この魔王の仏界の命を顕す。我々が臆病の心を捨て不惜身命の決意で御本尊に妙法を唱えるとき、我々の命は魔王の仏界の命に照らされるのである。はたして魔王はどこにいるのか。これは我が心中、すなわち「己心の魔」に内在するのである。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その21)

第67世日頭上人が創価学会との僧俗協調路線を推進される中、昭和55年4月、池田氏は「恩師の23回忌に思う」と題する所感を聖教新聞に発表し、逸脱路線がすべて自分の指導の誤りによるものとして反省懺悔を示した。しかし宗門内部において創価学会を批判する若手僧侶グループが、日達上人時代より学会を脱会して寺院の檀徒となった信徒を糾合し、学会批判を煽動していった。「正信会」と自称する彼らは日頭上人の代になつても、協調路線の方途を示す「院達」に従わず、昭和55年1月の第四回大会までが継続された。これに対し日頭上人および宗務院は再三注意と戒告を続け、ついに第五回総会を中止する警告を発令するにいたつた。しかし同会はその一切を無視し、昭和55年8月24日、東京武道館において大会を強行したのであった。(次回 正信会僧侶らへの処分)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(有頂天を考える)

有頂天とは、物事がうまくいった喜び、得意の絶頂という意味で使われる。有頂天は「有の天の最高処」と訳され、三界の中の最高の天界をいう。三界とは、欲望、その上に物質、さらにその上に精神の各世界をいう。その精神世界の最高天の世界を「有頂天」と名づけるのである。この世界は人智の想像をはるかに超えた不思議なる世界をいい、これが「喜んで我を忘れる」に転用されたのである。仏法では三界を六道輪廻の表れと説く。すなわち地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の境界に流転する迷いの世界をいう。「魔は天界に住む」という如く、有頂天の境界のところに魔は潜む。一片の喜びは無常の域であり、地獄の苦しみと背中合わせである。常住の幸福の源は妙法である。真実の喜びは崩されない人生の歓喜にあることを知って頂きたい。